

2025年度 学校評価結果（生徒アンケートより）

アンケートの結果から、以下の点が明らかとなりました。

①あてはまる・ややあてはまるの割合が85%以上の項目(12→11)

- 1 学校生活は楽しい
- 2 授業はよくわかる(学校の授業全体・学習内容)
- 3 先生の話をよく聞いている
- 4 学校行事や生徒会行事に進んで参加している
- 5 尾西第三中学校には良いところがある
- 8 部活動に進んで取り組んだ
- 12 あいさつはしっかりできた
- 13 場に合った言葉遣いができた
- 14 友達や家族を大切にしている
- 15 学習以外でもルールやマナーを守って生活している
- 18 先生はあなたの良いところを認めてくれている

②あてはまる・ややあてはまるの割合が60%以下の項目(2→3)

- 6 朝読書や図書館利用を通じて読書に親しんだ
- 11 家庭で読書をする習慣がある
- 16 地域の行事やボランティア活動に進んで参加している

①の内容について、85%以上の項目は19項目のうち11項目が該当し、6項目が90%以上となっています。昨年度増えた「4 学校行事や生徒会行事に進んで参加している」などの項目は引き続き高い水準を維持しており、生徒会やリーダー会が中心となって行事を運営する主体的な取り組みが、生徒の中に着実に定着している結果だと考えています。一方で、昨年度は増加していた③に該当する項目は、今年度は「該当なし」となりました。現状の維持に留まらず、教育活動全体を通してさらにより循環を生み、肯定的な評価をさらに底上げできるように取り組んでいきたいと思ひます。

一方で、②の60%以下の項目は昨年度よりも1つ増え、「6 朝読書や図書館利用を通じて読書に親しんだ」「11 家庭で読書をする習慣がある」「16 地域の行事やボランティア活動に進んで参加している」の3つが該当する結果となりました。また、④の昨年度より割合が下がった項目については、昨年度の2項目から5項目へと増加しており、特に「6 朝読書」や「11 家庭での読書」で大幅なポイント低下が見られるほか、「9 困った時は先生に相談した」などの数値も下がっています。限られた時間でも読書に親しむ習慣を育み、また生徒が安心して相談できる体制を整えるなど、実施方法を工夫し、自発的で心豊かな生徒を育成できるようにしていきたいと考えています。

アンケートの結果から、全体として多くの項目で高い肯定率を維持しており、生徒たちは概ね落ち着いた学校生活を送り、有意義な時間を過ごすことができていることがわかりました。今後は、低下が見られた読書習慣や地域活動、相談体制などの課題解決に向けて家庭や地域と一層の連携を図り、より良い学校を築いていくことができるようにしていきたいと思ひます。

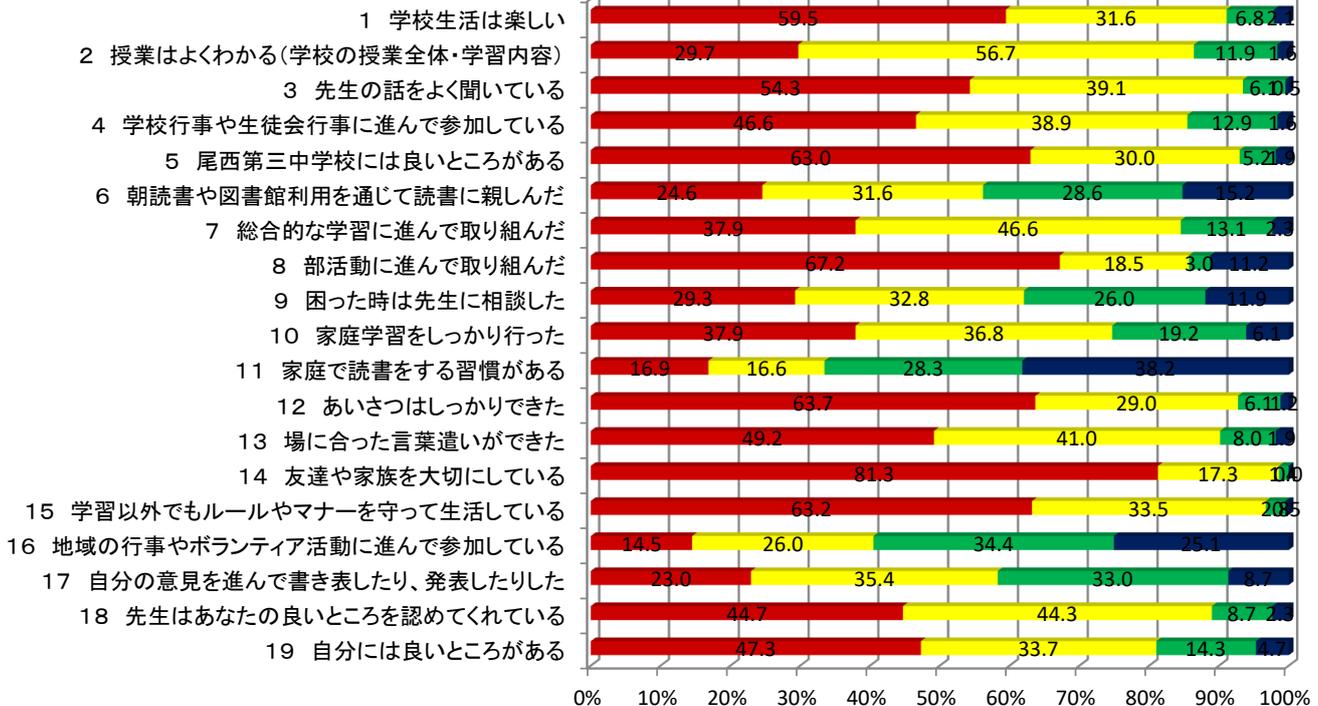
+3.0ポイント↑の項目
③あてはまる・ややあてはまるの割合が昨年より向上した項目(4→0)
該当項目なし

-3.0ポイント↓の項目
④あてはまる・ややあてはまるの割合が昨年より下がった項目(2→5)
6 朝読書や図書館利用を通じて読書に親しんだ【-7.91p】
9 困った時は先生に相談した【-5.03p】
11 家庭で読書をする習慣がある【-7.70p】
13 場に合った言葉遣いができた【-3.25p】
27 地域の行事やボランティア活動に進んで参加している【-3.22p】

2025年度 学校評価（全校生徒）

回答：427人（86.8%）

■① あてはまる ■② ややあてはまる ■③ あまりあてはまらない ■④ あてはまらない



学校運営協議会より

学校全体として落ち着きがあり、「学校生活は楽しい」と感じる生徒が多く、特に行事において異学年交流や生徒主体の運営に熱心に取り組む姿が見られることは、大変喜ばしいと感じている。一方で、地域の行事やボランティア活動への参加が昨年度より減少傾向にある点は懸念事項である。今後も学校と家庭、地域が密に連携し、生徒が地域社会の一員としてより積極的に関わり、自己肯定感を高めていけるよう支援していきたい。

家庭学習については、学習習慣の定着が依然として大きな課題であり、自律的に学習を調整する力の向上が強く求められる。学校でのきめ細かな助言と家庭での見守りを両輪として、粘り強く支援を続けてほしい。また、読書に関しても、校内・家庭ともに親しむ割合が顕著に低下しており、喫緊の課題である。図書館の活用や委員会による啓発活動など、あらゆる機会を通じて、生徒が本に親しみ豊かな感性を育めるよう、意図的な取り組みをさらに強化していくことを期待したい。